



「貧しい村の子どもたちです。まともな食事をしていないらしく、見かねて私の昼食を分けてあげました」(筆者)

アフリカ大冒険

竹林 義彦
三井金属鉱業 取締役社長

写真は1976年元日、アフリカ白ナイル川上流で魚釣りをした時のものです。当時私はイギリス研修をクリスマス前日に終え、2週間後に始まる北米研修までどう過ごそうか思案していました。結局、世界周遊航空券を持っているので少々回り道しても会社に迷惑をかけないだろうと、勝手な理

屈をつけ、南欧とアフリカを経由し、ニューヨーク入りする計画を立てました。計画書を作り、本社に送ったのはロンドンを出発した後。もう誰も止められません。ポルトガル・スペイン・ギリシャ・エジプトと、緊張と疲労で胃痛を抱えながら周り、カイロ空港でスーダンの飛行機を待つて

いました。

幸い同行の日本人がいます。大阪のY商会の社長で、自ら工業用ミシンを北アフリカ諸国に売り歩き、40日目になるとのこと。60歳位でしょう。カタコトの英語で政情不安な国々をたつた一

人で渡り歩き、商売をしていくたくましさで脱帽しました。Y社長にスーダンで現地取引先のハサネイン氏を紹介してもらいました。

彼から「明日魚釣りに行かないか」と誘われ、即OKしました。翌日、サファリ用の四駆でサバンナを突っ切り2時間後、釣り場に着きました。

結局1匹しか釣れませんでした。資源が豊富なのに内戦が絶えず、貧困から脱することが出来ないスーダンの現状と輝かしい未来を熱く語るハサネイン氏の話を聞きつつ、首都ハルツームに戻りました。その後、ケニアのナイロビで立てない程の胃痛に襲われ、ホテルで3日間仮死状態だった他は、無事キンシャサ経由でニューヨークに到着しました。

自分では大冒険のつもりでしたが、Y社長のようにたくましい日本人、自国の未来を語る明治人のようなハサネイン氏、どこまでも貧しいアフリカを垣間見て、私の



「いかにも“やり手”といった感じのハサネイン氏(左)です。初対面の私に本当に親切にしてくれました。スーダンは現在内戦が激化していますが、その後同氏がどうしているのか気がかりです」(筆者)

人生観もすっかり変わりました。帰国してから人事部長にこっぴどく怒られたのは言うまでもありません。

私	の	
思	い	出
写	真	館